

会議等名	平成 23 年度 第 2 回海老名市外部評価委員会
日 時	平成 23 年 7 月 4 日 (木) 10 : 00 ~ 11 : 40
場 所	3 F 政策審議室
出席者	外部評価委員会：大治委員長、諏訪副委員長、久保田副委員長、 成瀬委員、小林委員、山崎委員、清水委員、小島委員 門倉委員、阿部委員、堀尾委員、小幡委員 以上 12 名 海老名市：二見市長室次長兼政策経営課長 告原企画政策係長兼行政経営係長、本杉主査（書記）

< 会議進行：告原政策経営課企画政策係長兼行政経営係長 >

1 開 会 【告原係長】

2 委員長あいさつ 【大治委員長】

3 議 題 【議長：大治委員長】

- (1) 平成 23 年度外部評価結果報告書について
関係資料に基づき事務局から説明

< 意見・質疑等 >

□ 資料 1 ページの「はじめに」の記載内容について

「はじめに」については、平成 23 年度より変更した点を明記したらどうか。

⇒ 平成 23 年度より変更した点として

ア) 行政評価調書の大幅なフォーマットの改善について

外部評価は既製の行政評価システムを使用していたため、評価の基礎資料となる調書の様式変更ができませんでした。しかし、適正な評価を行うためには、抜本的に調書を変更する必要があると考え、昨年度の外部評価において、早急に改善すべきと提言したところです。これを受けて、市では改善に向けて私ども外部評価委員会と意見交換を行った中で、市独自で新たな調書が作成されました。この新たな行政評価調書では、指標（数値）化できない成果、事務事業の変更点及び実施における問題点などが明確となるため、効果的な外部評価を実施することが可能となったことを明記する。

イ) 外部評価を実施する事業の選定について

外部評価の対象事業については、平成 22 年度に実施した主要プロジェクト事業のほかに、平成 21 年度に評価した事業のうち、どのようにフィードバックされたかをチェックする必要がある事業、職員のコスト意識を重要視する観点から予算規模の大きい事業、そして、東日本大震災の経験から、市民の関心が高い災害対策に関する主要事業を選定しました。事業選定にあたっては、より精度の高い評価を実現するため、担当部課へのヒアリングを重視することとしたことから、対象事業数を 33 事業に絞込みを行ったことを明記する。

また、上記のア・イの項目については、「1 外部評価の実施概要」において、別途明記する。

□ 資料4 ページから9 ページまでの「2 外部評価結果の総括」の記載内容について

「(1) 外部評価と担当部課評価の結果比較」については、実施計画 438 事業のうち外部評価の対象事業は 33 事業なので、サンプル数の割合が少なく、評価結果の比較はあまり意味がないのではないかと。

「(2) 担当部課評価と異なる外部評価の結果」の記載内容については、評価結果の比較に対する詳細説明の記述であり、事業別の外部評価の判断理由についても、資料 11 ページ以降の外部評価結果と重なっているため、記載する必要はないのではないかと。

⇒ 外部評価結果の比較の中で使用している表については、表 1・2 及び参考資料 2 の表をまとめたものを、資料 11 ページの海老名市外部評価結果の前に記載する。

また、資料 5 ページから始まる「(2) 担当部課評価と異なる外部評価の結果」の記述部分はすべて削除する。

□ 資料9 ページの「外部評価全般に係る総括意見」の記載内容について

「外部評価全般に係る総括意見」については、提言と評価が混在していて、ただ、外部評価委員が自由に意見を述べているだけのように感じられる。よって、もう一度論理を整理して、項目別にまとめたほうが良いのではないかと。

また、総括意見は「1 外部評価の実施結果」の次に記載すべきではないかと。

⇒ 外部評価全般に係る総括意見については、論理を整理して項目別にまとめる。記載場所についても、「1 外部評価の実施結果」の次に移動する。

< 結 論 >

□ 平成 23 年度外部評価結果報告書については、上記の修正内容により校正を行い、校正後の外部評価結果報告書を外部評価委員に送付し、その内容に対する再修正箇所などの確認をいただく。その後、再修正した外部結果報告書を外部評価委員会の正副委員長に一任いただき、最終の外部評価結果報告書を作成する。

※ 平成 23 年度外部評価結果に係る市長報告会

1 日 時 平成 23 年 7 月 22 日 (金) 9 : 30 ~ 10 : 00

2 場 所 海老名市役所 3 階 政策審議室

4 閉 会 【告原係長】

以 上

